

令和4年度 奄美野生生物保護基金 第一四半期活用状況のご報告

奄美野生生物保護基金は、今年度より第一面の前年度会計報告と同様に四半期ごとに活用状況を報告することとなりました。

今期は龍郷町の奄美いんまや動物病院さんよりご報告頂きました。内容は以下の通りです。

傷病個体詳細

主な傷病原因の内訳と保護個体数・死亡個体数

傷病原因	保護個体数	死亡個体数
交通事故	5	5
感染症	1	0
バードストライク	3	2
衰弱	1	0
他個体による襲撃等	1	0
その他	5	2
合計	16	9

※他個体による襲撃等はイヌ・ネコ咬傷を含む（上記個体はカラスによる襲撃）。

※その他は原因調査中や誤認保護等です。

左の表は今年度4月～6月までに奄美いんまや動物病院に搬送された傷病鳥獣の主な傷病原因とその保護数・死亡数リストです。計14種の保護がありました。

保護種は鳥類が最も多く12種で、特にサシハやリュウキュウアカショウビンなどの保護が目立ちました。また鳥類以外では、シレンイモリ1個体、アオウミガメ1個体の保護がありました。

保護個体写真



今年5/19に大和村で日中、畑の中でうずくまりまっすぐ歩けない様子でした。原因はトキソプラズマという原虫感染による脳炎だと思われまます。投薬治療によりある程度は症状が改善され、生活できていますが傾斜（首が傾いている状態）が残っており、野生復帰は困難と考えられます。

エサは定期的に奄美野生生物保護センター職員が野外で採取し、動物病院へ届けています。症状が軽いときは元気にエサを食べており、好きな植物はイイギリやツルマオ、ササなどで、季節の変化とともに食性の好みは変わるようです。

ひとこと

上の表の通り、交通事故に遭った保護個体は全て死亡してしまっています。交通事故に遭うと、程度にもよりますが助けることが難しいと考えられます。動物たちが事故に遭わないよう、車を運転する方は注意して運転するよう心がけてください。

保護されたクロウサギが感染しているトキソプラズマ原虫はネコ科の動物を終宿主とする感染環をもつので、人がこの島にネコを連れてくるまではこの原虫は島にいませんでした。人が連れてきたネコが山を徘徊することで、奄美の在来種たちもこの原虫に感染してしまっているのです。在来種にどの程度影響があるのかはつきりした調査はされていません。保護個体の治療はこのような影響を知るきっかけにもなっています。